



連作障害には気をつけましょう!

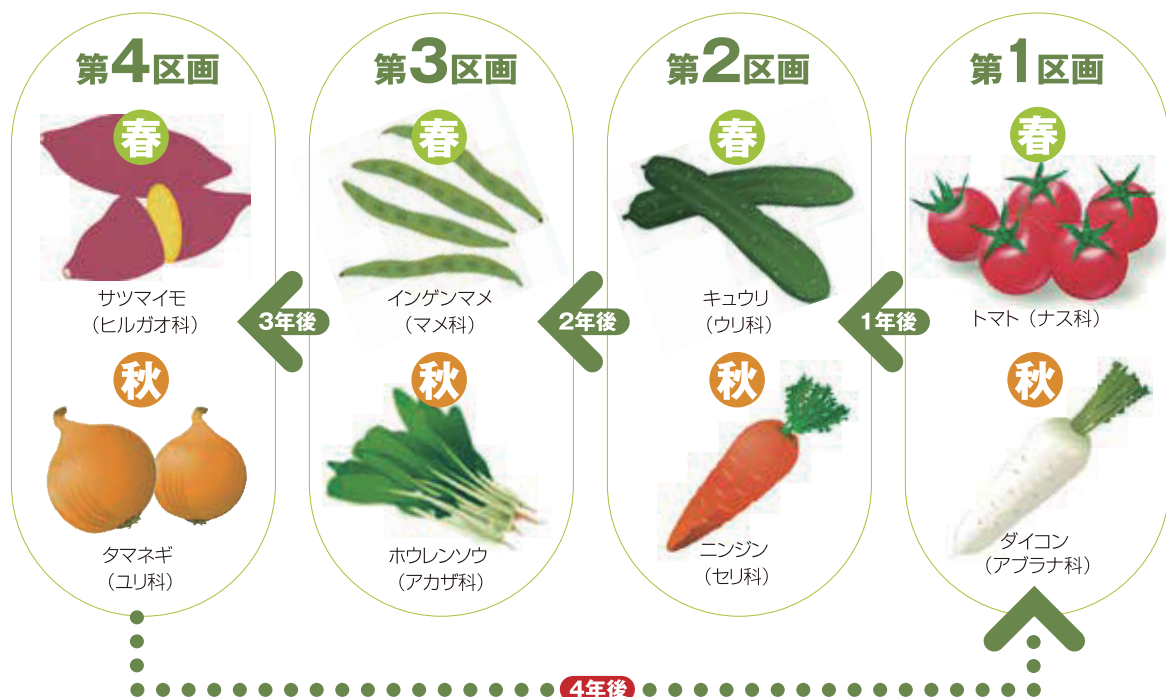
▼輪作の目安時期

輪作年数の目安	種類
1年以上休むもの	ニンジン、ダイコン、ホウレンソウ、コマツナ、ミズナなど
2年以上休むもの	インゲン、ジャガイモ、キャベツ、ハクサイ、レタスなど
3～4年以上休むもの	キュウリ、ピーマン、エダマメ、サトイモ、イチゴなど
4～5年以上休むもの	トマト、ナス、スイカ、エンドウ、ソラマメ、ゴボウなど
連作しても影響が少ないもの	カボチャ、オクラ、タマネギ、サツマイモ、ネギなど

異なる作物を一定周期ごとに植える方法のことで、吸収する養分やかかりやすい病害虫が違う作物を植えることで、土の状態が悪くなるのを防ぎます。

輪作をする

毎年同じ場所に同じ野菜(または同じ科目の野菜)を栽培することを連作といい、土壌の中の養分が偏ったり、病気にかかりやすくなる現象を連作障害といいます。連作障害を抑えるための対策を練って圃場の管理をしましょう。



畑を4～5つのブロックに分けて同じ科の野菜をまよめ、同じ区画内で同じ科の野菜を続けて栽培しないように配置します。栽培する野菜を1年ずつ隣のブロックにずらしていけば、元の区画に戻ってくるのは4～5年後となり、連作障害を抑えることができます。

ワンポイントアドバイス **サツマイモの植え付けについて**

直立植え

イモ数が少なくなりますが、大きいイモができます。

水平植え

イモ数が多くなる植え方です。一つ一つのイモは、小さめになります。

肥料の与え方にも注意!

サツマイモは肥料の吸収力が高いため、窒素を与えすぎると葉が茂りすぎてイモが大きくならない**つるだけ**状態になることがあります。窒素分が少なめに配合されている**くみあい化成13号**を使用するのがおすすめです。

米ぬかを 使って 連作障害を防ぐ

単一の作物の栽培や、すでに連作障害がまん延している畑では土を消毒して、増殖した病原菌やセンチュウを退治するしかありません。ここでは米ぬかを使用した消毒法を紹介します。

- ① 畑に1㎡当たり1kg程度の米ぬかをまきます。
- ② 米ぬかと土をよく混ぜることで、米ぬかをエサにする微生物が増えます。
- ③ 大量の水をまきます。
- ④ 透明なビニールシートで覆って1か月程度置いておきます。酸素が奪われて病原菌やセンチュウが窒息死します。